



風景の句読点

Punctuation of Scene 第13回

1号線と2号線の分岐

基礎地盤コンサルタンツ株式会社/技術本部/物理探査部
佐々木 勝 SASAKI Masaru (会誌編集専門委員)

千葉都市モノレール

空飛ぶ鉄道のある都市 (千葉県千葉市)

空を飛ぶモノレール

「鉄道が空を飛んでいる!おなかが見える!」千葉都市モノレールの第一印象はまさにこのような驚きであった。

千葉都市モノレールは千葉県の県庁所在地、千葉市を走るモノレールである。運営は千葉都市モノレール株式会社で、千葉市が出資している第三セクター鉄道である。

最大の特徴は、懸垂式というレールにぶら下がる形式のモノレールという点である。日本で運行している多くのモノレールは、跨座式というレールに跨る形式である。一方で懸垂式は、2022年12月現在、日本では「千葉都市モノレール」が唯一である。

「風景の句読点」は、私たちの心に句読点を打ち、思わず足を止めたくなるような素晴らしい風景について、その成り立ちや魅力の源泉を紹介するコーナーです。



屋上広場でのモノレールのすれ違い

ル」「湘南モノレール」「スカイレールサービス」の3事業者のみであるが、スカイレールサービスは2023年末に運行終了する方針が発表されている。

ギネス認定されたモノレール

千葉都市モノレールは、千葉みなと～県庁前の1号線と千葉～千城台の2号線の2路線からなる。1988

年3月にスポーツセンター～千城台間が開業し、その後3回の延伸をして現状の路線となった。総営業距離は15.2kmで「懸垂型モノレールとしては営業距離世界最長」のギネス認定を2001年6月に受けた。

千葉都市モノレールの技術的な利点などは参考資料等を見ていただくとして、利用者目線での利点は、なんとといっても乗車したときに景色がよく見えるという点である。また外部からモノレールを見ると車両の下部が見えるのが新鮮で、冒頭のような驚きが体感できる。

自分なりの鑑賞ポイント

空を飛ぶように走るモノレールは眺めているだけでも飽きないし、付帯施設も興味深いものがたくさんある。ここで千葉都市モノレールを鑑賞するための、個人的なおすすめポイントをいくつか紹介したい。

まずはモノレール千葉駅の南改札口を出てすぐ、商業施設屋上の広場である。手を伸ばせば届くかのような間近に迫るモノレールは必見である。またそこから1階に降りて南側、国道14号センチテ

交差点付近から見える、ビル

の隙間を抜けて建物の屋上から出てくるモノレールは都市交通ならではの景観だ。
千葉駅北東側の1号線と2号線の分岐も立体的な構造美を醸し出す。さらに2号線がJR総武本線を跨ぐ箇所は、直線のトラス橋に対しレールが湾曲している点も見逃せない。まだまだおすすめしたいポイントはたくさんあるが、この誌面だけでは伝えきれない。みなさんも千葉市を訪れたなら、自分なりのモノレール鑑賞ポイントを見つけて欲しい。



JR総武本線を跨ぐトラス橋

<参考資料>

- 1) 「モノレールと新交通システム」佐藤信之、2004、グランプリ出版
- 2) 「公共交通の厳しい経営環境 千葉都市モノレールの取組み」大澤雅章、『Consultant』252号、2011、建設コンサルタンツ協会
- 3) 千葉都市モノレールHP (<https://chiba-monorail.co.jp/>)
- 4) 千葉市HP (<https://www.city.chiba.jp/index.html>)

写真:筆者